

6. チェックリスト

(1) 海外生活における安全対策の基本的な心構え

- ①何よりも自分と家族の安全は自分達全員で守るとの心構えが基本
(家族全員の安全意識の高揚)。
- ②「予防」こそ最良の危機管理、そのための努力を惜しまない。
- ③悲観的に準備し、楽観的に行動する。
- ④現地での行動の三原則は、「目立たない」、「行動を予知されない」、
「用心を怠らない」ことであり、現地の文化・風俗や価値観を十分に考慮した上で行動しなければならない。
- ⑤住居の安全対策が生活面での安全対策の基盤。
- ⑥現地社会に早く溶け込む。治安情勢、対日感情などに関する様々な情報が常に得られるようなネットワーク作りを心掛ける。
- ⑦精神衛生と健康管理に留意する。

(2) 住居選択のためのチェックリスト

(1) 住居を選択する前に	Yes	No
・滞在国の治安などに関する説明を十分受けたか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・滞在国治安機関の能力と信頼性を把握したか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・警備会社（ガードマン）の信頼性を把握したか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・住居の選択に際し、他の日本人の助言を得たか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・滞在国の危険分析を的確に行ったか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・危険に応じた「住居の安全対策基準」を自分なりに定めたか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

- ・市街地（道路）地図を入手し、図上研究を行ったか
 - ・信頼できる住宅業者がいるか
- (D) ルートの安全確保 Yes No
- ・自宅より、例えば事務所まで、2本以上の安全なルートをとれるか
 - ・ルートの道幅は比較的広くかつ安全か(両通行であること)
 - ・ルートには尾行された時に避難できる安全な場所（例えば警察署）があるか
 - ・決まった目的地まで行くのに、危険地域を通らなくても済むか
 - ・学校やスーパーマーケットなど殆んど毎日出かける場所までの安全は十分か
- (H) 地域の安全確保 Yes No
- ・住居周辺の治安情勢をチェックしたか
 - ・住居の周辺地域の住民の安全に対する関心は高いか
 - ・警察、消防、医療、救急機関などのサービスが緊急時に短時間で利用可能な範囲か
 - ・犯罪多発地域に隣接していないか
 - ・住居の周辺に犯人が身を潜めるような場所はないか
 - ・住居の監視される場所が近くにないか
 - ・不審者や不審車両に対する警戒が容易か
 - ・付近に爆弾テロの目標となるような施設はないか
- (I) 住居の安全確保 Yes No
- ・独立家屋を取り巻く四方のうち三方は、他の住居に囲まれているか

- ・ 隣りの住居の住人について調査したか
- ・ 住居への出入り(特に車両)は安全かつ迅速に行える構造か
- ・ 住居の安全対策は周辺の住居の安全対策(外観)と比べて
同等以上か
- ・ 家主は住居の安全対策強化に積極的か

(3) 3つの防衛線による住居の安全対策チェックリスト

①住居の敷地境界線、②建物外周、③建物内部の3か所に物理的・段階的な防衛線を設け、これらに人的・物的両面から必要な対策をとり、外部からの侵入などの住居に対する各種の危険から防護するという考え方が極めて効果的(次頁の図を参照下さい。)

◇ (第1次防衛線)

外周の防衛線で、独立家屋の場合には敷地境界線、集合住宅の場合には共通の出入口(ロビー玄関外側の扉)。

◇ (第2次防衛線)

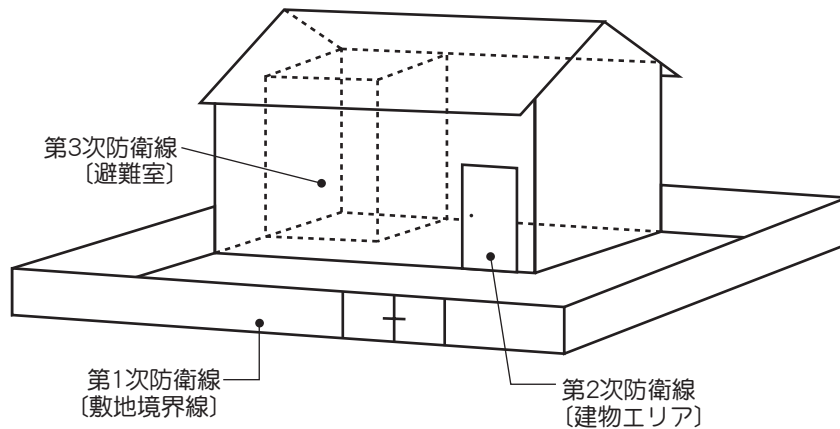
内周の防衛線で、独立家屋の場合は住宅建物地域(建物エリア)の外周を構成する線、集合住宅の場合には住宅部分の外周を構成する防衛線。

◇ (第3次防衛線)

内周の防衛線で、独立家屋、集合住宅いずれの場合も第2次防衛線内に設けた避難区域(通常主寝室)に設定する防衛線。

(4) 独立家屋の第1次防衛線の安全対策チェックリスト

- (a) 外塀 Yes No
- ・ 外部から簡単に侵入できない構造であるか



- ・高さや堅牢性は十分か □ □
 - ・外壁を乗り越えられる箇所はないか □ □
 - ・外塀から直接住居の2階や屋根に忍び込み得る構造にないか □ □
 - ・外周に照明設備はあるか □ □
 - ・塀の上に障害（例えば、鉄条網、忍び返し）が設置されているか □ □
 - ・侵入警戒装置、テレビ監視装置などが設置されているか □ □
 - ・外部から住宅内部が覗かれないか □ □
- (b) 門扉 Yes No
- ・鍵がなければ容易に侵入できないものか □ □
 - ・外塀の高さと堅牢性に合致しているか □ □
 - ・来訪者を確認する手段（インターフォン、テレビ監視装置など）があるか □ □
 - ・周辺に照明設備があるか □ □
 - ・周辺に犯人が身を潜める場所はないか □ □

- ・門扉内部から外の安全を確認できるか
- (c) 駐車場（車庫） Yes No
- ・住宅敷地内にあるか
 - ・車の出入れが迅速かつ安全に行えるか
 - ・駐車場の扉は人の出入口扉と区分されているか
 - ・リモコンによる扉の自動開閉装置があるか
 - ・駐車場内に犯人が身を潜める場所はないか
 - ・駐車場内外に照明設備があるか
- (d) 庭 Yes No
- ・庭と建物外周に照明設備があるか
 - ・敷地内に犯人が身を潜める場所はないか
 - ・樹木などは十分に手入れがなされ、除草されているか
 - ・2階や屋根に忍び込む際の手助けとなる物はないか
 - ・梯子などが放置されていないか
- (D) 集合住宅の第1次防衛線の安全対策チェックリスト
- (a) 建物共通の出入口（玄関ロビー） Yes No
- ・建物内部へは住居者以外の者が勝手に出入できない構造か
 - ・全ての出入口は管理人又は守衛により管理されているか
 - ・全ての出入口は堅牢で、錠前がついているか
 - ・周辺に犯人が身を潜める場所はないか
 - ・出入口周辺に照明設備があるか
 - ・来訪者の確認（インターフォン、テレビ監視装置）が容易か
 - ・夜間の出入口の管理は万全か
 - ・守衛、カード読み取り機、テレビ監視装置などの管理が十分か

(b) 駐車場	Yes	No
・敷地内（外塀の内側）にあるか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・車の出入れが迅速かつ安全に行えるか（守衛による駐車場扉の開閉、リモコンによる自動開閉装置）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・24時間体制で管理人又は守衛により管理されているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・周辺に犯人が身を潜める場所はないか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・照明設備は十分か	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・夜間の管理は万全か	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(c) 建物	Yes	No
・警報装置はあるか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・防火設備、非常階段などはあるか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・内外の照明設備は十分か	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・犯人が侵入しやすい箇所（弱点）はないか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・耐震性は十分か	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

犯人の侵入を防ぐとの意味では、集合住宅（3階以上）の方が独立家屋よりは防御性が一般的に高く、隣人の援助が得られ易いので、安全対策も比較的安価で済む。

3階以上の住居が望ましいと言っても、現地の消防救助活動の限界を越える高さの住居は避けるべきである。

(A) 独立家屋と集合住宅の第2次防衛線の安全対策チェックリスト

(a) 入口扉（玄関）	Yes	No
・扉と扉の枠は頑丈なのか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・2つ以上の錠前とドアチェーンがついているか（或いは扉が二重になっているか）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

- ・扉に覗き穴、インターフォン（監視テレビ付が望ましい）
などの訪問者を確認する手段があるか
- ・扉の周囲に窓（犯人が手を伸ばし扉を開ける）がないか
- ・周辺に照明設備（常夜灯）があるか
- ・センサーなどの侵入警戒装置があるか
- (b) その他の出入口 Yes No
- ・扉と扉の枠は頑丈なものか
- ・鍵などが2つ以上取り付けられているか
- ・センサーなどの侵入警戒装置があるか
- (c) 窓 Yes No
- ・窓と窓枠は頑丈かつ安全（ロックは確実か）なものか
- ・独立家屋の場合、全ての窓に鉄格子が取付けてあるか
- ・集合住宅の場合、犯人が侵入可能な箇所はないか（テラス、
階段などに近い窓には鉄格子等が必要）
- ・天窓、トイレの小窓、クーラーの取付部などにも鉄格子が
あるか
- ・鉄格子は取り外されたり、押し曲げられない強度か
- ・センサーなどの侵入警戒装置があるか
- ・緊急脱出の際、一部の窓の補強装置は内側から開閉できるか
- (d) 建物 Yes No
- ・建物全体として侵入されない構造か
- ・屋根、床下などから侵入されない構造か
- ・建物内部に警報装置があるか
- (二) 独立家屋と集合住宅の第3次防衛線の安全対策チェックリスト Yes No
- ・主寝室などを避難室にするための工事が容易か

- ・ 入口扉と扉の枠は頑丈か（鉄扉、覗き穴付）
- ・ 窓に鉄格子が取付けてあるか
- ・ 壁、天井、床の強度は十分か
- ・ 電話（独立回線が望ましい）があるか
- ・ 緊急時に必要な物、貴重品を保管する場所があるか

(4) 車で移動する時の安全対策チェックリスト

- | (イ) 車の購入 | Yes | No |
|--|--------------------------|--------------------------|
| ・ 頑丈で目立たない車を選択したか | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ・ 現地で整備可能か | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ・ 安全ベルト、サイドミラー、エアコンなどが装備されているか | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ・ 運転手以外の者が後方を確認できるバックミラーをつけているか | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ・ 故障の際の修理道具、スペアタイヤ、パンク応急改修資
材、牽引ロープ、充電用ケーブル、消火器、応急用医薬品
などが積載されているか | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ・ 車の盗難、事故などの全てをカバーする保険に加入済か | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ・ 対人保険は、滞在国の支払い額を十分にカバーする保険か | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ・ 盗難警報装置、自動車電話、小型無線機などの設置を考えたか | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| (ロ) 日常の車の整備 | Yes | No |
| ・ 常に良好な状況にあるか | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ・ 燃料は常にタンクの半分以上あるか | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ・ 常に管理の十分な駐車場に駐車しているか（路上駐車は避
ける） | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ・ ドアは常にロックしているか | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ・ トランク内に予備の水、オイルなどを積んでいるか | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

- ・目立つようなステッカーなどを付けていないか
 - ・貴重品や車の登録書類を車内に放置していないか
- (ハ) 車での移動 Yes No
- ・乗り降りの都度周囲の安全を確認しているか
 - ・車に乗り込む際は、車の外周、下、室内（特に後部座席）
を点検しているか
 - ・勤務日あるいは休日に予測可能な行動パターンをとっていないか（定時の出勤・退社、決まった経路、定期的なレクリエーション・買物など）
 - ・目的地での駐車は守衛などにより管理されている所を利用し、路上駐車を避けているか
 - ・目的地までの道路事情を把握しているか
 - ・警察、病院、軍・政府関係施設などの位置を把握しているか
 - ・目的地迄のルートとその代替ルートを事前に計画しているか
 - ・走行中ドアをロックし、窓を閉めているか
 - ・走行中でも貴重品を外部から見える位置に置いていないか
 - ・移動は脇道を避け、交通量の多い大通りを走行しているか
 - ・運転手を雇用している場合、時には助手席に座ることを心掛けているか
 - ・2本以上の車線のある道路では中央レーン寄りに走行しているか
 - ・走行中に車間距離を保っているか
 - ・不審者に尾行された場合の対処行動を予め計画しているか
 - ・不審者・不審車両などの概要を記録するための機器（例えば録音機）を携行しているか

- ・ 走行中は同乗者全員が周囲を警戒しているか
 - ・ 緊急の際、電話をかけることができるか（現地語、現地通貨、電話番号リスト）
 - ・ 長距離を移動する場合は、夜間を避け、単独行動を避けているか
 - ・ 気象状況の変化（雪など）に対する準備は十分か
- (二) 運転手を雇用する場合 Yes No
- ・ 運転手に緊急時に必要な運転技術教育を行っているか
 - ・ 運転手にガードマンとしての自覚を持たせているか
 - ・ 運転手に常に車の側にいるように指導しているか
 - ・ 非常時の合図などを決めているか

車で移動する時、乗り降りの際、駐車場（車庫）から幹線道路迄の間が最も危険度が高く、狙われやすい。自宅を出る前には、不審な車や人物が周囲にいないか注意し、少しでも異常を感じたなら安全が確認されるまで乗車しないようにする。帰宅時も同様に自宅周辺の安全を十分確認してから駐車場に入れることが重要である。また、毎日同じ時刻、同じ通勤経路を利用するのは、一般犯罪のみならず誘拐、テロなどの標的にもなりやすい。移動のパターンをわずかに変えるだけでも、犯罪者の意図を挫いたり、その計画を放棄させるには十分な効果がある。

(5) 生活面の安全対策チェックリスト

- (イ) 引越後 Yes No
- ・ 周囲の環境、道路（特に一方通行路）、地形に慣れる努力をしたか

- ・警察、病院、消防機関などの位置と連絡方法を確認したか
- ・最寄りの知人宅の位置と連絡方法を確認したか
- ・隣人との良好な関係維持に努力しているか
- ・住居の安全対策上の弱点を把握したか
- ・住居の安全対策上の弱点を補うべく検討したか
- ・ガードマンの雇用を検討したか
- ・近所がどのような安全対策をとっているか確認したか
- (D) 訪問者に対する注意 Yes No
- ・訪問者の身元を確認してから応対しているか
- ・配達人（物）に対する警戒は十分か
- ・見知らぬ者（物売り、工事人等）を敷地内に入れていないか
- (H) 使用人に対する注意 Yes No
- ・使用人の雇用（審査）は、信頼できる人からの紹介によるものか
- ・使用人の身元調査（特に正直さと信頼性）を行ったか
- ・公的機関の発行した身分証明書など等の写しを入手したか
- ・安全上の心得を機会あるごとに教育しているか
- ・来訪者の応対要領、電話応対時の注意などを徹底したか
- （家人が留守の時の応答要領は特に重要）
- ・許可なく来訪者を敷地内に入れよう指導しているか
- ・家人不在時の緊急連絡先を使用人に知らせているか
- ・家人の旅行日程、外出などの行動予定を使用人に伝えていないか
- ・使用人に隙（犯罪を誘発する環境）を見せていないか
- ・常に適切な管理と指導を行っているか

・外出、休日の行動、心情の変化を掴んでいるか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・使用人が複数の場合、責任者を指定しているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(二) 家族に対する注意	Yes	No
・家族各人は安全に関心を持っているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・家族各人は住居に異常があった時の行動を熟知しているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・自宅の電話（無線機）の使い方を知っているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・家族旅行の計画、その他の計画を他人に漏らしていないか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・子女の通学路の安全は十分か	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・家族各人の行動、居場所を常に把握しているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・常に家族全員が直ちに連絡をとり合える体制になっているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・家族各人の行動、計画に変更がある場合には連絡をとり合っているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(ホ) 外出に際しての注意	Yes	No
・場所や日程の決まった外出をしていないか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・戸締り、施錠もれの点検を行ったか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・外出前に使用人などに対する指導は十分行ったか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・出発・帰宅時に周囲の警戒を怠っていないか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・社交活動などにおいて、現地の反感を買うような発言をしていないか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(ハ) 電話	Yes	No
・電話のかけ方を各人が知っているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・携帯電話、衛星電話、衛星携帯電話・無線機等のバックアップの通信手段はあるか、又、その使用方法に習熟しているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・電話機の側に緊急連絡リストが常備されているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・メモ、筆記具、要すれば電話録音機が設置されているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

- ・電話をとる際、こちらから名乗っていないか
- ・間違い電話に対してこちらの番号を教えてないか
- ・不審な電話に対する処置を各人が知っているか
- ・脅迫電話があった場合の処置を各人が知っているか
- ・使用人が私用で電話をかけていないか

(ト) 鍵

Yes No

- ・鍵の取扱いに十分注意しているか
- ・鍵は常時携帯し、保管にも注意しているか
- ・鍵に脱落防止措置（鎖や紐を付ける）をしているか
- ・使用人に鍵を貸与していないか
- ・入居時に重要な鍵の交換を考慮したか
- ・鍵を紛失したとき、錠前の交換をしたか
- ・錠前の取り付けや予備鍵の作製は信頼できる業者に委託しているか

(フ) 休暇などの際の措置と対策

Yes No

- ・信頼できる警備会社があるか
- ・信頼できるガードマンがいるか
- ・信頼できる使用人がいるか
- ・信頼できる知人に時々点検してもらえるか（時々駐車場に駐車してもらい、電気をつけてもらい、ゴミを出してもらい、カーテンを開いてもらうなど）
- ・自動タイマー又は感光式の照明（ラジオ等）の設置を検討したか

<参考資料>

日本人・日本企業が被害者になった最近の主なテロ事件等（抜粋）

- ◆**邦人襲撃事件(2004年5月、イラク)**
5月27日、イラクにおいて日本人2人及びイラク人通訳1人が何者かに襲撃され死亡。
- ◆**邦人誘拐事件(2004年4月、イラク)**
4月14日、イラクにおいて日本人2人が誘拐され、17日にバグダッド市内モスクにおいて無事解放。
- ◆**邦人誘拐事件(2004年4月、イラク)**
4月7日、イラクにおいて日本人3人が誘拐され、15日にバグダッド市内モスクにおいて無事解放。
- ◆**外交官襲撃事件(2003年11月、イラク)**
11月29日ティクリット付近において日本人外交官2人及び現地人運転手1人が何者かに襲撃され死亡。
- ◆**バクダッドの国連本部爆破事件(2003年8月、イラク)**
8月19日午後4時30分頃(現地時間)、複数の国連機関の本部があるバグダッドのカナール・ホテルで大規模な爆発が発生し、22人が死亡、国連職員の日本人男性1人を含む100人以上が負傷。
- ◆**リヤド市内における爆弾事件(2003年5月、サウジアラビア)**
5月12日深夜、リヤド市内の複数のコンパウンド(外国人が多く居住する集合住宅)等で連続自爆テロが発生し、外国人を含む34人が死亡、約200人が負傷。日本人は、コンパウンドに住んでいた3人が軽傷。
- ◆**邦人旅行者誘拐事件(2003年10月、中国)**
10月9日、瀋陽で旅行者が誘拐され、日本にいる家族に対し、身代金を要求する事件が起き、11日に現地公安当局により無事保護。
- ◆**邦人誘拐事件(2003年9月、ベネズエラ)**
9月9日、ベネズエラ西部マラカイボにおいて、在留邦人が誘拐され、同20日、現地警察により無事救出。
- ◆**邦人誘拐事件(2003年1月、フィリピン)**
2003年1月30日、フィリピン・マクタン島において日本人が誘拐され、逮捕された容疑者は被害者を殺害したと供述。
- ◆**邦人誘拐事件(2003年1月、フィリピン)**
2003年1月23日、フィリピンにおいて日本人が誘拐され、6日後に無事解放。
- ◆**邦人誘拐事件(2002年11月、コロンビア)**
11月、コロンビアと国境を接しているベネズエラのタチラ州で在留邦人が誘拐され、7ヶ月以上拘束された後解放。
- ◆**バリ島爆弾テロ事件(2002年10月、インドネシア)**
10月12日、バリ島のデイスコにおいて爆発事件が発生し(184人死亡、300人以上負傷(2002年11月現在))、邦人2人が死亡、13人が負傷。
- ◆**エルサレムのヘブライ大学における爆発事件(2002年7月、イスラエル)**
7月31日、エルサレムのヘブライ大学構内のカフェテリアで爆発事件が発生し(7人死亡、約80人負傷)、邦人2人が軽傷。
- ◆**イスタンブールにおけるホテル立て籠もり事件(2002年5月、トルコ)**
5月4日、武装した男性1人がイスタンブール市内の高級ホテルを占拠し、宿泊客・従業員を人質にして立て籠もった。約45分後、犯人は警察に逮捕され、邦人旅行者2人を含む人質12人全員が無事解放。
- ◆**イスラマバード市内のキリスト教教会における爆発事件(2002年3月パキスタン)**
3月17日、イスラマバード市内の外交団地区のキリスト教教会で爆発事件が発生し、5人が死亡、40人以上が負傷。負傷者の中には邦人1人が含まれていた。
- ◆**米国における同時多発テロ事件(2001年9月、米国)**
9月11日、民間航空機4機がハイジャックされ、そのうちの2機がニューヨークの世界貿易センタービルに衝突、1機がワシントンの国防総省に突入、1機がピッツバーグ郊外に墜落。邦人24人(世界貿易センタービル内企業関係者22人、航空機搭乗者2人)を含む約2,800人が死亡・行方不明。
- ◆**邦人誘拐事件(2001年8月、コロンビア)**
8月31日、クンディナマルカにおいて、邦人1人が何者かに連れ去られ、10月18日に無事保護。
- ◆**邦人誘拐事件(2001年5月、ブラジル)**
5月27日、サンパウロ市郊外において現地法人社長とその友人夫妻が何者かに誘拐され、翌28日に無事解放。
- ◆**イスタンブールにおける武装勢力によるホテル立て籠り事件(2001年4月、トルコ)**
4月22日、親チエチェン武装勢力がイスタンブール市内の高級ホテルを占拠し、宿泊客・従業員を人質にして立て籠もった。翌23日、犯人は投降し、邦人12人を含む人質全員無事解放。
- ◆**合併現地法人社員誘拐事件(2001年2月、コロンビア)**
2月22日、ボゴタにおいて現地法人社員が何者かに誘拐され、2003年11月に遺体で発見。
- ◆**セブ島における邦人襲撃事件(2001年2月、フィリピン)**
2月22日、セブ島において邦人建設事業関係者6人が、帰宅途中待ち伏せに遭い発砲を受けた(邦人1人の被害なし)。後日、共産ゲリラ(NPA)が犯行声明を発表。
- ◆**カタール航空機ハイジャック事件(2000年9月、サウジアラビア)**
9月14日、ドーハ(カタール)発アンマン(ヨルダン)行きカタール航空機がハイジャックされ、サウジアラビアのハーイルで乗員乗客解放。乗客に邦人4人が含まれていた。
- ◆**邦人漁船乗っ取り事件(2000年7月、ソロモン)**
7月26日、ソロモン諸島において邦人2人を含む乗組員37人が乗船する漁船が何者かに乗っ取られた。翌27日ホニアラ港に到着後、人質全員無事解放。
- ◆**インディアン航空機ハイジャック事件(1999年12月、アフガニスタン)**
12月24日、カトマンズ発ドリー行きインディアン航空機が数人の武装グループにハイジャックされ、アフガニスタン南部のカンダハールに着陸。犯人は、乗員、乗客と釈放を要求していたインドで服役中の3人を交換後、国境に向け車で移動(出国先不明)。乗客に邦人1

- 人が含まれていた。
- ◆スリランカ大統領暗殺未遂事件(1999年12月、スリランカ)

12月18日、コロンボ市内において、大統領の選挙演説中に自爆テロによる暗殺未遂事件が発生し、32人が死亡、111人が負傷。邦人記者1人が巻き添えになり重傷。
 - ◆在タイ・ミャンマー大使館占拠事件(1999年10月、タイ)

10月1日、バンコクにあるミャンマー大使館がミャンマー政権に反対する武装グループにより占拠される事件が発生したが、人質は同日無事解放。人質の中に邦人1人が含まれていた。
 - ◆邦人技師誘拐事件(1999年8月、キルギス)

8月23日、オシュ州で資源開発調査に従事していた邦人技師4人他が誘拐され、10月25日に無事解放。
 - ◆邦人誘拐事件(1998年9月、コロンビア)

9月22日、ボゴタ南西のパスカにおいて、邦人1人が誘拐され99年2月25日無事解放。
 - ◆在ケニア・タンザニアの米大使館爆破事件(1998年8月、ケニア、タンザニア)

8月7日、ケニア、タンザニアにおいてほぼ同時に米大使館を狙った爆弾テロ事件が発生し、ケニアで約250人死亡、約5,000人が負傷(内在留邦人1人が負傷)、タンザニアで11人死亡、70余人負傷。
 - ◆ルクソール観光客襲撃事件(1997年11月、エジプト)

11月17日、ルクソールのハトシェブスト女王葬祭殿においてイスラム過激派メンバーが観光客に対して銃撃(62人死亡、19人負傷)、日本人観光客が10人死亡、1人負傷。
 - ◆建設会社事務所の工事作業所長誘拐事件(1997年8月、フィリピン)

8月22日、ブラガン州プストス市で工事作業所長が誘拐され、8月26日無事解放。
 - ◆在ペルー日本大使公邸占拠事件(1996年12月、ペルー)

12月17日、天皇誕生日祝賀レセプションを開催していた在ペルー大使公邸をトゥパック・アマル革命運動(MRTA)の団が、多数の招待客・大使館員を人質として占拠。翌年4月22日、ペルー軍の救出作戦により、3人の犠牲者が生じたものの、人質解放。
 - ◆家電関連企業の米国法人社長誘拐事件(1996年8月、メキシコ)

8月10日、ティファナ市に工場を持つ家電関連企業の米国法人社長が同市内にある野球場から帰途誘拐され、19日無事解放。
 - ◆エジプト航空機ハイジャック事件(1996年3月、エジプト)

3月27日、ジッダ発ルクソール経由カイロ行きエジプト航空機がハイジャックされ、リビアのマルトゥーバ軍事航空基地に着陸。犯人はリビア当局に投降し、乗員乗客全員無事解放。
 - ◆キプロス・ターキッシュ航空機ハイジャック事件(1996年3月、北キプロス)

3月8日、北キプロス発イスタンブール行きキプロス・ターキッシュ航空機がハイジャックされ、ソフィアを経由してミュンヘン空港に着陸。犯人はドイツ当局に投降し、乗員乗客無事解放。
 - ◆中央銀行爆破事件(1996年1月、スリランカ)

1月31日、コロンボ市中心部に位置するスリランカ中央銀行に爆弾を積載したトラックが突入、建物は大破(死者80人、負傷者1,300人以上)。付近のホテルに宿泊していた邦人6人が軽傷。
 - ◆レストラン爆破事件(1995年12月、ロシア)

12月20日、モスクワの日本料理店のトイレ内に仕掛けられた爆弾が爆発し、店内に損害。
 - ◆エジプト大使館爆発事件(1995年11月、パキスタン)

11月19日、イスラマバードにあるエジプト大使館が爆破され、建物は完全に崩壊(死者13人、負傷者60人)。日本大使館の館員3人が負傷、同事務所・公邸にも多大な物的損害。
 - ◆邦人旅行者誘拐事件(1995年7月、トルコ)

7月13日、トルコ南東部で邦人旅行者が誘拐され、同月18日自力脱出。
 - ◆フィリピン航空機内爆破事件(1994年12月、日本)

12月11日、沖縄県南大東島付近上空を飛行していたマニラ発セブ経由成田行きのフィリピン航空機内で爆弾が爆発。邦人1人が死亡、6人が負傷。
 - ◆邦人農場主誘拐事件(1994年9月、コロンビア)

9月24日、カサナレ県で邦人農場主が誘拐され、11月12日無事解放。
 - ◆中国南方航空機ハイジャック事件(1994年6月、中国)

6月6日、中国・福建省福州発広東省広州行き中国国内線南方航空機がハイジャックされ、台湾中正国際空港に着陸。犯人は台湾当局に拘束され、乗員乗客全員無事解放。
 - ◆日本人文民警察官襲撃事件(1993年5月、カンボジア)

5月8日、パンテアイミアンチェイ州アンピルにおいてUNTACの列車が襲撃を受け、日本人文民警察官1人が死亡、同4人が負傷。
 - ◆ロンドン金融街連続爆破事件(1993年4月、英国)

ロンドンの国際金融街で連続爆破があり(死傷者80人以上)、日本の金融企業社員が巻き込まれ19人負傷。
 - ◆日本人選挙監視要員射殺事件(1993年4月、カンボジア)

4月8日、コンポントム州で、UNTAC日本人選挙監視要員が射殺。
 - ◆ボンベイ連続爆破事件(1993年3月、インド)

3月12日、ボンベイにおいて連続爆破事件が発生し、爆破ビルに隣接したビルに入居していた日本企業事務所に物的損害。
 - ◆世界貿易センタービル爆破事件(1993年2月、米国)

2月26日、ニューヨークの世界貿易センタービル地下の駐車場で爆弾が爆発(死者6人、負傷者1,000人以上)。邦人4人が煙を吸い込み入院。
 - ◆ルフトハンザ機ハイジャック事件(1993年2月、ドイツ)

2月11日、フランクフルト発アディスアベバ行きルフトハンザ機がオーストリア上空でハイジャックされ、犯人はニューヨークで投降、乗客乗員無事解放。